1かつの小さな森のこども園だより

あけまして おめでとうございます。
今年もよろしくお願いします。

2017年、平成29年がスタートしました。
昨年は、4月の地震から、本当に、いろんなことがありましたが、今年も新年を、我が家で迎えられたことを、ありがたく感じています。もともと、何かと振り回されてくる二歳児の私ですので、16年目のわが園は、また一つの節目のようで、どのような流れになるか、不安はありますが、地震後再開できた運を胸に、向き合っていければと思います。
年が明けたばかりですが、年度末まで、超特急で進みそうな気がしています。卒園まで、年長さんのゆうひを小学校へ渡すまでの貴重な残り3ヶ月の時間を大切に、やまと、みっきと共に、めいっぱいすごせたらと思います。
1月も盛りだくさんなカリキュラムで小さな森のこども園のスタートです～。

～〈あなたの叱り方はなぜ効かないのか〉～
（のびのび子育て 子どもに伝わらない「叱り方」より）

子どもを叱る意味

頭ごなしに親の感情をぶつけるのは、「叱る」ではなく「怒る」です。「怒る」のでは、親の思いは子どもに伝わりません。
一方「叱る」とは、子どものことを考えた上での、冷静な行為のことをいいます。

〈H.29.1.5〉

～どうして叱られているのか 子どもがわからないのはなぜか～

お母さんは、どうしても悪いところばかりが目についてしまい、着替えが遅いと「早くしなさい」、食べこぼしには「ダメじゃないの」など、子どもは一日のうちに何度も、同じ言葉で叱られます。
お母さんは「善悪の区別がつくように」という親心から叱っていますが、子どもは「ダメじゃないの」と言われても、何がダメなのか、なぜ叱られているのか、わからないのです。生まれつき男の子は、若い女性の話し声が聞き取りづらいという特性があり、「わからない」にますます拍車がかかります。さらに、同じ言葉や声の調子で叱られていると、慣れてしまい、子どもに響かなくなります。

～子どもに伝わる言葉でわかりやすく叱る～

子どもを叱るときには、「筋道を立てて、わかりやすく伝えながら叱る」ということが重要です。
たとえば、子どもがいけないことや危険なことをしたとき、ただ「ダメ」と言うのではなく、「みんなの迷惑になるからやめようね」「危ないからやめてね」と理由を言えば、子どもも理解できます。
また、長い時間をかけて言い聞かせるのも逆効果です。そんなに長くは、子どもは聞くことに集中できないのです。くどくど言わず、簡潔に叱りましょう。過去のことまで持ち出して「昨日もそうだったし、そういえばこの間も……」と叱っても子どもの心には届きません。

◎6つの叱り方 NG

1、子どもの人格を否定する
2、すぐに叱らないで後回しにする
3、人のせいにして叱る（スマートフォンのしつけサポートアプリが話題に）
4、他者と比べて叱る
5、失敗や結果の不出来を叱る
6、叱り方に一貫性がない

～のびのび子育てより～